

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第172号(2021. 7. 1)
事務局 川西地区自主防災会

企業の皆さんと共に地域力をアップ

川西地区自主防災会
岩崎正朔

皆さん コンニチワ、今月原稿依頼に伺う時間がとれず私が今月の「防災・減災の輪」にチャレンジすることとしました。

私達が活動している川西地区コミュニティ組織に移行して26年、自主防災会が誕生して20年となりました。両組織の当初から関わっており、自分で言うのはおかしいのですが生き字引のような立場となっています。

まちづくりも防災活動も五里霧中の状態からスタート、ボランティア活動の難しさも体験しながら30年近くの月日が流れました、今の川西地区の頑張り、もちろん、コミュニティの各部会の皆さんの努力も大きいのですが、地域内で事業を行なっている企業皆様のご支援とご理解の賜ものと思っています。

私と企業皆様との接点模様を紹介いたしますので、ご参考にさせていただき水平展開していただければ幸いです。

新しく設立した企業への取組み

1. このような企業とのおつきあい、お世話のしがいがあります。
 - ・ 用地交渉のサポート
 - ・ カード会員の登録受付（オープン前から）の場所とテントやイス類の提供
 - ・ 水利組合へのアプローチ
 - ・ パート従業員の斡旋
 - ・ 従業員の安全対策（防犯灯の設置）
2. 昔から存在する企業とのおつきあい
平素の中で、タイミングよくトライすることがポイント
 - ・ 葬儀・告別式でのかかわり
（県外でも必ず対応する）
 - ・ 会社の設立記念日…
まずは祝電（1回目）次年度はお祝い品



- ・地域情報誌の配布（名刺持参し、直接手渡す）
- ・企業からの廃水、騒音、地域とのあつれき問題、仲介の労を！

以上のような取組みを寡黙に実施すること、要するに企業からのサーブをしっかり受け止めること、これが一番大切でないかと思えます。

私自身、自治会長という立場ですので、企業との出入りが容易だったのではないかと感じております。

では具体的に企業との取組みについて整理してみたいと思えます。

<企業との具体的取組み>

（１）流通備蓄契約の締結

大型商業施設 2 店舗と飲料水、みそ、野菜類について、避難所開設から契約書にのっとり、商品の提供を受け、支払いはまとめて避難所閉設後に行なうとするものです。



（２）備蓄倉庫として企業内建物を活用

仮設リース会社の倉庫、建設資材卸業会社の倉庫、鉄筋加工会社の倉庫など 5 社と締結



（３）災害時救助活動に重機類の支援活動への締結

クレーン車、パワーショベル等救助活動への出動、クレーン会社建設会社など 4 社と締結



（４）保育所、幼稚園、小学校への「かけつけ支援」活動の締結

活動の締結

中国四川大地震による児童への被害からの教訓として、保育所、幼稚園、小学校から 500 メートル以内の企業との「かけつけ支援」10 社の企業が参画

（５）一時避難所として企業の社屋等を活用する協定の締結

土器川の氾濫、ため池決壊による緊急避難先として、うちわ工場の 2F、電子

部品製造会社の事務棟 2F～4F、社会福祉法人の建物 2F～3F の供用部分の活用する取組み。

最近では防災以外「生活支援」として、企業用地の借用、具体的には、ゴミステーションとして、土地の無償提供 5 カ所、この取組みは今後増加するものと思っています。

最後に経済面でも支援していただいている事例です。

自主防災会の「賛助会員」制の導入です。企業の従業員数に応じてランク分け(5 ランクに分類)して年会費として支援をいただいております。年間 60 万円の活動費をいただいておりますことから、常に企業の皆さんに見られていることを意識せざる得ない状況で、責任者としてプレッシャーを感じているところです。



編集後記

先月号で高松气象台より原稿を頂き Web 上に掲載しておりますが、紙面としての配布が遅れておりますことをお詫び申し上げます。

昨年からのコロナの影響によりダイナミックな活動ができず消化不良気味になっておりますが、ワクチン投与も進んでいることから今年度後半には前向きな活動ができるものと思っております。